

作業療法学科 カリキュラム

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		14
		文学	2	30							2	30		
		国語表現法			2	30					2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		リハビリテーション統計学			2	30					2	30		
	コミュニケーション演習			2	60					2	60			
基礎分野	小計	11	180	6	120	2	30	0	0	19	330		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		12
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学	4	60							4	60		
		運動学演習			1	30					1	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		14
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学	2	30							2	30		
		整形外科学Ⅰ			2	30					2	30		
		整形外科学Ⅱ			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
	臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学		
	臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学		
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4	
	社会福祉学			1	15					1	15			
	医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30			
	公衆衛生学	1	15							1	15			
	地域包括ケアシステム論			2	30					2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む		
専門基礎分野	小計	35	555	24	375	0	0	0	0	59	930		30	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	1	30							1	30		5
		作業分析学Ⅰ			1	30					1	30		
		作業分析学Ⅱ					1	30			1	30		
		基礎作業技法演習			2	60					2	60		
		臨床見学演習	1	30							1	30		
		基礎作業療法学演習Ⅰ	2	60							2	60		
		基礎作業療法学演習Ⅱ			2	60					2	60		
		基礎作業療法学演習Ⅲ					1	30			1	30		
	作業療法管理学	職場管理・リスクマネジメント論					1	30			1	30		2
		作業療法管理学					1	30			1	30	作業療法教育及び職業倫理含む	
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		5
		作業療法評価学Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法評価学Ⅲ					2	60			2	60		
		作業療法評価学Ⅳ					1	30			1	30		
		作業療法評価学Ⅴ					1	30			1	30		
		画像評価学					1	30			1	30		
	作業療法治療学	作業療法治療学概論			1	30					1	30		19
		作業療法治療学Ⅰ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅰ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅱ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅲ			1	30					1	30		
作業療法治療学Ⅲ演習						2	60			2	60			
作業療法治療学Ⅳ						2	60			2	60			
作業療法治療学Ⅴ						2	60			2	60			
作業療法治療学Ⅵ						1	30			1	30	喀痰等の吸引含む		
日常生活活動学				1	30					1	30			
義肢装具学				1	30					1	30			
ファシリテーション演習Ⅰ		1	30							1	30			
ファシリテーション演習Ⅱ				1	30					1	30			
作業療法学研究Ⅰ						1	30			1	30			
作業療法学研究Ⅱ								1	40	1	40	卒業論文作成含む		
地域作業療法学	地域作業療法学概論					1	30			1	30		4	
	生活環境論					2	60			2	60			
	地域作業療法学技術論					1	30			1	30			
臨床実習	見学実習Ⅰ(身体機能系)			1	40					1	40		22	
	見学実習Ⅱ(精神機能系)			1	40					1	40			
	評価実習Ⅰ(身体機能系)					3	120			3	120			
	評価実習Ⅱ(精神機能系)					3	120			3	120			
	臨床実習Ⅰ(総合)								8	360	8	360		
	臨床実習Ⅱ(総合)								8	360	8	360		
	地域作業療法学実習								1	40	1	40		
専門分野	小計	6	180	15	470	31	990	18	800	70	2440		57	
	総計	52	915	45	965	33	1020	18	800	148	3700		101	

1 年 次

令和6年度 前学期

時間割

作業療法学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00～ 10:30	解剖学Ⅱ 受島	文学 村田	医学倫理, 職業倫理学 山野	自然科学Ⅱ 高宮	基礎作業療法学 演習Ⅰ 川口
2	10:40～ 12:10	英語 木下	リハビリテーション 医学概論 坂崎	保健体育 大潮	心理学 林田	生理学Ⅰ 伊藤雅浩 高木, 瀧野, 池田
3	13:10～ 14:40	解剖学Ⅰ 高木, 瀧野, 池田	運動学 池田		生理学Ⅰ 高木, 瀧野, 池田	作業療法概論 高木
4	14:50～ 16:20					自然科学Ⅰ 伊藤喜久男

令和6年度 後学期

時間割

作業療法学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00～ 10:30	神経内科学Ⅰ 川口	生理学Ⅱ 橋本	基礎作業療法学 演習Ⅰ 田河, 矢形	解剖学演習 受島	人間発達学 小材
2	10:40～ 12:10	臨床心理学 古閑		解剖学Ⅱ 受島	解剖学演習 受島 ファシリテーション演習Ⅰ 矢形	解剖学Ⅰ 島崎
3	13:10～ 14:40	作業療法評価学Ⅰ 瀧野, 池田	公衆衛生学 北野	生理学演習 岩永, 高木		運動学 池田
4	14:50～ 16:20		精神医学Ⅰ 宮内			

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：作業療法学科 1 年次

心理学	113
文学	113
自然科学Ⅰ	114
自然科学Ⅱ	115
英語	116
保健体育	116
解剖学Ⅰ	117
解剖学Ⅱ	118
解剖学演習	119
生理学Ⅰ	120
生理学Ⅱ	121
生理学演習	122
運動学	123
人間発達学	124
神経内科学Ⅰ	125
精神医学Ⅰ	126
臨床心理学	127
リハビリテーション医学概論	128
医学倫理・職業倫理学	129
公衆衛生学	129
作業療法概論	130
臨床見学演習	131
基礎作業療法学演習Ⅰ	132
作業療法評価学Ⅰ	134
ファシリテーション演習Ⅰ	135

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	心 理 学
代表講師	林 田 秀 樹 (所属：くまもと悠心病院)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	現代心理学の概要について基礎から学び、日常を心理学的な視点から考察する。また、対人援助職として基本となる、人間理解を深める。				
到達目標	心理学的知識を身に付け、今後の学習や仕事、社会生活に役立てられるようになる。				
成績評価の方法と基準	講義ごとのレポート (配点 30%) と筆記試験 (同 70%) にて合計 60%以上の成績を修めること				
テキスト・教材等	テキスト『心理学入門こころを科学する 10のアプローチ』、プリント、パワーポイント				
回数	授 業 内 容				
第1回	心理学史／オリエンテーション、心理学とは何か、心理学の歴史と役割				
第2回	学習心理学／本能行動、古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習				
第3回	生理心理学 (1)／脳の構造とはたらき、各神経系の構造と機能				
第4回	生理心理学 (2)／中枢神経と末梢神経の活動、感情と情動				
第5回	知覚心理学／知覚と感覚、五感 (視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚) について				
第6回	認知心理学／知能、認知、注意、記憶、言語について				
第7回	社会心理学／自己と他者や集団とのかかわり、社会的影響				
第8回	パーソナリティ心理学 (1)／パーソナリティとは、パーソナリティテスト (エゴグラムの演習)				
第9回	パーソナリティ心理学 (2)／パーソナリティの分類、形成と発達				
第10回	臨床心理学 (1)／臨床心理学とは、心理査定、心理療法各論				
第11回	臨床心理学 (2)／意識と無意識、防衛機制、欲求と欲求不満				
第12回	臨床心理学 (3)／ストレスと疾病、こころの病について				
第13回	発達心理学／発達段階と発達課題				
第14回	神経心理学／心と脳、高次脳機能障害、その他の心理学的知見				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	文 学
代表講師	村 田 由 美				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	優れた近・現代の文学作品を通して「命」について考える。 特に後半は病と戦争に密接な作品について学ぶ。				
到達目標	文学作品を通してハンセン病、水俣病について知り、病による差別について考えることができる。また戦争中の人体実験について知り、医療について深く考えられるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、レポート (30%)				
テキスト・教材等	適宜プリント配布				
回数	授 業 内 容				
第1回	講義概要について説明し、レポートの書き方について学ぶ				
第2回	中島 敦の生涯について				
第3回	中島 敦「山月記」 レポート(1)				
第4回	熊本時代の漱石について				
第5回	夏目漱石「草枕」(1)				
第6回	夏目漱石「草枕」(2)				
第7回	「らい予防法」の制定から廃止まで				
第8回	熊本におけるハンセン病差別事件				
第9回	北条民雄の生涯について レポート(2)				
第10回	北条民雄「いのちの初夜」				
第11回	石牟礼道子の「苦海浄土」について				
第12回	遠藤周作の生涯について				
第13回	遠藤周作「海と毒薬」(1)				
第14回	遠藤周作「海と毒薬」(2)				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	自然科学 I
代 表 講 師	伊 藤 喜久男 (熊本大学名誉教授)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	高校までに学習した「数学の基礎」は物理学に不可欠であり、それを再確認する。 そのうえで、力学や流体力学の現象を理解できるように授業する。				
到 達 目 標	体の動きに不可欠な力のモーメントの理解を深める。 さらに、血圧計や点滴装置などの医療器具の原理を理解する。				
成績評価の方法と基準	毎週実施する小テストの結果を30%、定期試験の結果を70%として、総合して評価する。				
テキスト・教材等	プリントしたテキストを配布する。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	実数、有理数、無理数、整数、自然数、円、球、角度 (°、rad)、直角三角形、三角関数				
第2回	指数、対数、正比例、一次方程式、連立一次方程式				
第3回	ギリシャ文字、接頭語 (キロ、ミリなど)、 基本単位 (長さ、質量、時間)、組立単位の例 (速さ、密度)				
第4回	スカラー (大きさだけをもつ)、ベクトル (大きさと向きをもつ)、 ベクトルの和と差、ベクトルの掛け算、力の釣り合い				
第5回	力のモーメント (トルク) の釣り合い、テコの原理、定滑車と動滑車、重心、 運動を記述する物理量、ニュートンの運動の3つの法則				
第6回	万有引力の法則、重力加速度、等速直線運動、等加速度運動、自由落下運動、放物運動				
第7回	運動量の変化=力積、運動量保存の法則、2つの物体の衝突、バットでボールを打つ、 仕事 (=力×距離)、力学的エネルギー保存の法則、熱力学第二法則、 摩擦力、自動車の制動距離、等速円運動、遠心力と見かけの力				
第8回	圧力 (=力/面積)、点滴装置				
第9回	ピストン (パスカルの原理)、浮力 (アルキメデスの原理)				
第10回	ベルヌーイの定理、流量一定の式、層流と乱流、血圧計				
第11回	周期 = 1 / 振動数、ばねの振動、単振り子				
第12回	波の振動の向き (横波、縦波)、波の種類 (音、地震波、光)、 波の性質 (反射、屈折、回折、全反射)				
第13回	凸レンズと凹レンズ、人の眼				
第14回	まとめ、試験前の注意				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	自然科学Ⅱ
代表講師	高 宮 正 之 (所属：熊本大学名誉教授)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	人(ヒト <i>Homo sapiens</i>)は180万種とされる生物の1種である。生物の基本的な単位である細胞の構造と機能、代謝、細胞分裂、発生、遺伝の法則や分子遺伝学を理解した上で、生命の連続性と貴重性を学びとる。生物学の基本を修得し、専門科目学修のための基礎を作る。				
到達目標	生物学の基礎的能力をスキルとして身に着けることができる。iPS細胞、ヒトゲノム、クローン動物、遺伝子組み換え、ゲノム編集など、日常の生物学的話題を理解し説明できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	特定の教科書は用いない。毎時間プリントを配布する。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	導入	日常生活で生物学の知識がスキルとして必要であること。生命を定義し、今日の生命がどのように誕生し、進化してきたのか。現在のヒトの在り方と生命の連続性の意味を学ぶ。			
第2回	生命の単位	生命とは何か、細胞の大きさはどのくらいか、生命と細胞との関係を知る。顕微鏡の種類、単細胞生物と多細胞生物などを学ぶ。			
第3回	細胞の構造と機能(1)	細胞の基本的構造、細胞小器官とは何か、生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームなどの構造と機能などを学ぶ。			
第4回	細胞の構造と機能(2)	リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能、原核細胞と真核細胞、ウイルスなどを学ぶ。			
第5回	細胞の構造と機能(3)	細胞の活動(生物とエネルギー、ATP、代謝)について学ぶ。			
第6回	生命の連続性(1)	細胞分裂(体細胞分裂)、染色体、細胞周期について学ぶ。			
第7回	生命の連続性(2)	減数分裂について学ぶ。配偶子とは何かを知り、ヒトの卵子と精子の形成について学ぶ。			
第8回	生命の連続性(3)	ヒトでの受精を中心に、発生、器官形成を学ぶ。			
第9回	生命の連続性(4) / 中間まとめ1	幹細胞やiPS細胞とは何かを理解する。簡単な中間まとめテストを行い、内容を解説する。			
第10回	遺伝と変異(1)	メンデルの遺伝の法則、遺伝に関する基礎的用語を学ぶ。			
第11回	遺伝と変異(2)	ヒトの遺伝(耳垢、血液型など)を学ぶ。			
第12回	遺伝と変異(3)	遺伝子と染色体(染色体異常、判性遺伝など)を学ぶ。			
第13回	遺伝と変異(4)	DNA、RNA、タンパク質合成、セントラルドグマなどについて学ぶ。			
第14回	遺伝と変異(4) / 中間まとめ2	遺伝子から細胞、個体までの一連の流れを学ぶ。遺伝的変異、遺伝子工学などについて学ぶ。簡単な中間まとめテストを行い、内容を解説する。			
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	英 語
代表講師	木下幸恵				
授業方法	講義	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	専門医療用語の活用に必要な基礎学力としての英語読解力をテキスト演習を通じて向上させ、論理的思考の向上も目指す。予習を通じて各自不明点を明らかにした上で授業でそこを解明していくこと。				
到達目標	単に授業で習ったことを覚えるのではなく、初見の英語を辞書や参考書等を活用して自分なりの理解につなげられるようになることを目標とする。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『Slow & Steady』				
回数	授 業 内 容				
第1回	Introduction Slow & Steady	テキスト解説 Chapter 1	(各 Chapter の Grammar Check と Writing は各自自習して来ること) 5つの基本文型		
第2回	Slow & Steady	Chapter 2	動詞		
第3回	Slow & Steady	Chapter 3	進行形・未来形・助動詞		
第4回	Slow & Steady	Chapter 4	名詞・冠詞・代名詞		
第5回	Slow & Steady	Chapter 5	前置詞・接続詞（Ⅰ）		
第6回	Slow & Steady	Chapter 6	形容詞・副詞		
第7回	Slow & Steady	Chapter 7	命令文・感嘆文		
第8回	Slow & Steady	Chapter 8	不定詞		
第9回	Slow & Steady	Chapter 9	動名詞と分詞		
第10回	Slow & Steady	Chapter 10	各種疑問文・It の特別用法		
第11回	Slow & Steady	Chapter 11	受動態		
第12回	Slow & Steady	Chapter 12	完了形		
第13回	Slow & Steady	Chapter 13	接続詞（Ⅱ）		
第14回	Slow & Steady	Chapter 14	仮定法		
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	保健体育
代表講師	大潮八郎				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到達目標	生涯スポーツを意識し、自己体力の保持増進のできる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70%）・平常点：目標の到達度（20%）・参加意欲（10%）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				
回数	授 業 内 容				
第1回	教科ガイダンス 運動と生理機能 体力 行動体力 防衛体力 精神力				
第2回	運動と表現機能（運動器）・コントロール機能（神経系）				
第3回	運動と持続機能（心肺機能）				
第4回	エネルギー供給過程：エネルギー源				
第5回	トレーニングと原理原則 種類 効果				
第6回	実技：バドミントン① 基礎技術練習 ストローク				
第7回	〃	②	ダブルスゲームルール解説		
第8回	〃	③	ダブルスゲームルール確認		
第9回	〃	④	ダブルスゲームリーグ戦開始①		
第10回	〃	⑤	〃	②	
第11回	〃	⑥	〃	③	
第12回	〃	⑦	〃	④	
第13回	〃	⑧	〃	⑤	
第14回	〃	⑨	〃	⑥	
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学 I
代表講師	高 木 勝 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30回 (60時間)
授業概要	人体の骨・関節・筋・神経の構造と機能について講義をする。				
到達目標	〈前期〉 骨の分類、構造、発生について説明できる。 体軸性骨格、付属性骨格個々の名称や構成、特徴について説明することができる。 骨の連結の構造と機能を説明できる。 人体の各関節の構造と機能及び可動性について説明できる。 〈後期〉 骨格筋の一般的な構造と機能を説明できる。 人体の主要な骨格筋の構造 (起始・停止・走行) 及び作用を説明できる。 中枢神経と末梢神経の構造と機能を説明することができる。				
成績評価の方法と基準	前期 (高木・瀏野・池田)：筆記試験 (90%)、小テスト (10%) 後期 (島崎)：筆記試験 (90%)、小テスト (10%)				
テキスト・教材等	『入門人体解剖学』、『カラースケッチ解剖学』、『PT・OT・ST のための解剖学』、『からだが見える人体の構造と機能』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	総論：解剖学の基本と系統解剖学への取組み 基本姿勢、身体区分、身体の面、位置、各部位を示す用語				高木勝隆 瀏野浩二 池田裕輔
第2回	骨格系：骨の分類・骨の構造・血管・神経の分布、その他				〃
第3回	骨格系：骨の再構築・軟骨の種類・骨軟骨の発				〃
第4回	体軸性骨格：頭蓋 (顔面頭蓋、脳頭蓋、新生児頭蓋)				〃
第5回	体軸性骨格：脊柱 (基本構造、頸・胸)				〃
第6回	体軸性骨格：脊柱 (腰部・仙・尾部)、胸郭の構成と機能				〃
第7回	付属性骨格 上肢骨 (上肢帯骨、自由上肢、手・手指)				〃
第8回	付属性骨格 上肢骨 (上肢帯骨、自由上肢、手・手指)				〃
第9回	付属性骨格：下肢骨 (下肢帯骨、寛骨、骨盤、自由下肢、足)				〃
第10回	付属性骨格：下肢骨 (下肢帯骨、寛骨、骨盤、自由下肢、足)				〃
第11回	関節・靭帯：頭蓋、脊柱、肋骨、胸骨				〃
第12回	関節・靭帯：上肢帯、自由上肢、手・手指				〃
第13回	関節・靭帯：下肢帯、自由下肢、足				〃
第14回	上下肢及び体幹の骨格・関節・靭帯のまとめ				〃
第15回	試 験				
第16回	筋系：筋の種類・筋の補助装置・骨格筋の構造・顔の筋・咀嚼筋・舌筋				島崎一也
第17回	筋系：肩甲体・腱板・肩関節の筋				〃
第18回	筋系：肘関節・手首と指・手内在筋				〃
第19回	筋系：臀部・大腿後面・大腿前面の筋・内転筋群				〃
第20回	筋系：下腿の筋・足部の筋				〃
第21回	筋系：頸部の筋・胸郭の筋				〃
第22回	筋系：体幹の筋・上肢の筋・下肢の筋のまとめ				〃
第23回	神経系：神経系の構成・ニューロンの機能的分類・シナプスと神経伝達物質・神経筋接合部・中枢神経系の発生				〃
第24回	神経系：大脳半球・大脳半球における神経回路・神経核・間脳・脳幹・小脳				〃
第25回	神経系：脊髄・上行性伝導路・下行性伝導路・脳室・髄膜・脳脊髄液の循環				〃
第26回	神経系：脳神経・脊髄神経と脊髄神経根・脊髄反射・脊髄神経の分布				〃
第27回	神経系：皮節・感覚受容器・交感神経 (1)・(2)、副交感神経				〃
第28回	神経系：腕神経叢と上肢に分布する神経、腰神経叢と下肢の神経				〃
第29回	神経系：視覚系 (1)・(2)・(3)、聴覚と前庭系 (1)・(2)、味覚と嗅覚				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学Ⅱ
代表講師	受島敦美（元熊本大学医学部教授）				
授業方法	講義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
授業概要	人体構成要素のうち、内臓諸器官の構造とそれらの相互関係について、体系的に学習する。また、受精から始まるヒトの胎生初期の形態形成についても学ぶ。				
到達目標	外からは見ることのできないからだの内部構造を知り、病気に対する理解を深めることができる。				
成績評価の方法と基準	試験成績				
テキスト・教材等	『入門人体解剖学』				
回数	授 業 内 容				
第1回	器官と組織：上皮組織				
第2回	器官と組織：支持組織				
第3回	器官と組織：筋組織、神経組織				
第4回	循環器系：循環器系の全体像、血管の組織構造				
第5回	循環器系：心臓				
第6回	循環器系：動脈の経路①				
第7回	循環器系：動脈の経路②				
第8回	循環器系：静脈の経路、胎児の循環系				
第9回	循環器系：リンパ管とリンパ節、脾臓、胸腺				
第10回	循環器系：血球の種類と特徴、造血				
第11回	消化器系：消化管の組織構造				
第12回	消化器系：口腔、咽頭、食道				
第13回	消化器系：胃				
第14回	消化器系：小腸				
第15回	試 験				
第16回	消化器系：大腸				
第17回	消化器系：肝臓、胆のう				
第18回	消化器系：膵臓				
第19回	呼吸器系：鼻腔、喉頭、気管				
第20回	呼吸器系：肺、胸膜、縦隔				
第21回	泌尿器系：腎臓				
第22回	泌尿器系：尿管、膀胱、尿道				
第23回	生殖器系：男性生殖器				
第24回	生殖器系：女性生殖器				
第25回	腹腔：腹膜と腹膜腔				
第26回	内分泌系：下垂体、甲状腺、副腎ほか				
第27回	感覚器：眼の構造				
第28回	感覚器：耳の構造、皮膚の構造				
第29回	発生：初期発生				
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学演習
代表講師	受島敦美（元 熊本大学医学部教授）				
授業方法	演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回（30時間）
授業概要	人体の骨格構成と各骨の形態的特徴を直接観察しながら学ぶ。さらにビデオ映像を通して、実際の人体解剖による筋、脈管、神経の配置や形状を学習する。				
到達目標	骨を直接手にして、各部位の形態や特徴および関節の構成などを理解し、図では得られない骨格の実形態を理解することができる。				
成績評価の方法と基準	スケッチ（20%）と試験（80%）				
テキスト・教材等	骨標本、ビデオ				
回数	授 業 内 容				
第1回	骨観察と描写①：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢				
第2回					
第3回	骨観察と描写②：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢				
第4回					
第5回	骨観察と描写③：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢				
第6回					
第7回	骨観察と描写④：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢				
第8回					
第9回	骨観察と描写⑤：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢				
第10回					
第11回	骨観察と描写⑥：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢				
第12回					
第13回	肉眼解剖：上肢と下肢の筋、脈管、神経の実物映像の観察				
第14回					
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学 I
代表講師	伊藤 雅 浩 (所属：熊本大学大学院生命科学研究部) 刈野 浩 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義	単位数	4	学期・回数	前期：30回(60時間)
授業概要	生理学 I では、ヒトが生きていくためには、刻々と変わる外界や体内からの情報を収集し、それらに対応して体内環境を適切に維持している。具体的には血液、循環、呼吸、体液調節、消化、内分泌などの働きについて講義する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・血液の組成、役割を説明できるようになる。 ・呼吸器の構成と役割、肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬及び呼吸調整について説明できるようになる。 ・組織の循環及び血圧調整のメカニズムについて説明できるようになる。 ・腎臓の構造と役割、尿の生成メカニズム、クリアランス及び糸球体濾過量の意味を説明できるようになる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『Q シリーズ 新生理学』、『PT・OT 国家試験共通問題 できるもん・でたもん [基礎医学]』、『からだが見える一人体の構造と機能』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	体液と血液の組成、アルブミンと膠質浸透圧、血液の酸・塩基平衡				池田裕輔
第2回	赤血球の構造、赤血球の分化・成熟、ヘモグロビンの合成				〃
第3回	赤血球の寿命とヘモグロビンの分解、止血機序				〃
第4回	血小板血栓の形成機序、凝固系と線溶系				〃
第5回	血小板の活性化とアラキドン酸代謝、顆粒球および単球の分化・成熟				〃
第6回	リンパ球の分化・成熟、抗体と補体				〃
第7回	細胞性免疫と液性免疫、血液型				〃
第8回	呼吸に関する物理法則、呼吸器の構造、肺気量の区分				刈野浩二
第9回	換気運動と仕事、肺胞表面活性物質				〃
第10回	換気血流比と肺循環、肺におけるガス交換、血液による酸素の運搬				〃
第11回	ヘモグロビンの酸素解離曲線、血液によるCO ₂ の運搬、呼吸の調節				〃
第12回	血圧とは、血液の分布、循環の調整				〃
第13回	血管の神経支配、血管の収縮・弛緩				〃
第14回	血管の局所性調節、全身の血圧調節				〃
第15回	急速血圧調節、毛細血管・組織間液・リンパ				〃
第16回	冠循環の特徴、腹腔循環と皮膚循環				〃
第17回	妊娠・出生に伴う呼吸・循環の変化				〃
第18回	水・電解質の出納、ネフロン構造と機能				高木勝隆
第19回	糸球体における濾過、糸球体濾過量とクリアランス				〃
第20回	尿細管再吸収率、水の再吸収、電解質その他の再吸収				〃
第21回	尿の緩衝作用、体液量と体液浸透圧の調節				〃
第22回	エリスロポエチン、排尿				〃
第23回	内分泌：視床下部 - 下垂体系によるホルモン分泌調節の概要、オキシトシン、成長ホルモン				伊藤雅浩
第24回	内分泌：副腎皮質ホルモン、ストレスとホルモン、副腎髄質ホルモン、甲状腺ホルモン				〃
第25回	内分泌：血糖値の調節、Ca濃度の調節、女性ホルモンと性周期、男性ホルモン				〃
第26回	消化と吸収：口腔内消化、胃液分泌の調節、胃液の働き、胃運動の調節				〃
第27回	消化と吸収：十二指腸・膵臓・胆嚢の構造、膵液、胆汁、膵液と胆汁の分泌調節				〃
第28回	消化と吸収：栄養素の吸収、結腸、排便、肝臓の働き、肝臓とHb代謝産物、黄疸				〃
第29回	基礎代謝、エネルギー代謝率、呼吸商、体温				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学Ⅱ
代表講師	橋本弘司(所属:熊本大学大学院生命科学研究部)				
授業方法	講義	単位数	4	学期・回数	後期:30回(60時間)
授業概要	ヒトが物事を認識・判断し行動するとき、身体でどのようなメカニズムが働いているのかを、神経、筋肉を中心に解説します。				
到達目標	神経系、筋肉系の発達、老化、病態、疾患の理解には臓器レベル、細胞レベル、分子レベルの仕組みをすることが不可欠です。受講後、神経系、筋肉系の基礎メカニズムが説明できるようになり、生体・精神機能の回復や維持、予防の考え方が身に付きます。				
成績評価の方法と基準	定期テストの結果(90%)に、受講態度や小テストの結果(10%)を合算して評価する。				
テキスト・教材等	『Qシリーズ新生理学』				
回数	授 業 内 容				
第1回	人体を構成する細胞および細胞小器官について説明できるようになる。				
第2回	神経細胞、筋細胞の機能に関するタンパク質の合成および構造について説明できるようになる。				
第3回	静止膜電位、活動電位の発生機序および特徴について説明できるようになる。				
第4回	活動電位の興奮伝導様式と伝導速度、神経線維の種類について説明できるようになる。				
第5回	筋の構造と分類、収縮機序について説明できるようになる。				
第6回	筋の収縮様式と発生張力について説明できるようになる。				
第7回	平滑筋の構造、シナプスの種類、化学シナプスの構造について説明できるようになる。				
第8回	神経伝達物質と受容体、神経筋接合部における興奮の伝達について説明できるようになる。				
第9回	末梢神経の切断と再生、シナプス後電位、反復刺激の影響について説明できるようになる。				
第10回	α 運動ニューロン、 γ 運動ニューロン、腱反射について説明できるようになる。				
第11回	脊髄反射、随意運動の伝達路、筋電図について説明できるようになる。				
第12回	末梢神経の区分、自律神経の特徴について説明できるようになる。				
第13回	交感神経と副交感神経による機能亢進、抑制機構について説明できるようになる。				
第14回	皮膚感覚器及び痛覚のメカニズムについて説明できるようになる。				
第15回	体性感覚の伝導路について説明できるようになる。				
第16回	聴覚のメカニズムについて説明できるようになる。				
第17回	平衡感覚のメカニズムについて説明できるようになる。				
第18回	視覚器の構造について説明できるようになる。				
第19回	光の受容過程、網膜における情報処理について説明できるようになる。				
第20回	視覚の伝導路について説明できるようになる。				
第21回	味覚、嗅覚のメカニズムについて説明できるようになる。				
第22回	大脳皮質の機能局在について説明できるようになる。				
第23回	大脳基底核の機能局在について説明できるようになる。				
第24回	小脳による姿勢と運動制御について説明できるようになる。				
第25回	大脳辺縁系の情動、視床下部と本能行動、脳幹の生命維持中枢について説明できるようになる。				
第26回	覚醒、睡眠時における脳波について説明できるようになる。				
第27回	中枢神経系の伝達物質と受容体、ドーパミン神経と報酬系について説明できるようになる。				
第28回	前頭前野の機能について説明できるようになる。				
第29回	ストレスに対する反応、記憶と学習、血液脳関門、髄液循環に関して説明できるようになる。				
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学演習			
代表講師	岩永書朋 (所属：熊本機能病院) 高木勝隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)							
授業方法	演習・講義	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)			
授業概要	人体の恒常性維持に必要な呼吸、循環、神経の機能について、講義および演習を行う。							
到達目標	人体の機能とその測定法について理解する。 神経の活動電位、神経の伝導速度、心電図、血圧、呼吸機能について理解できるようになる。							
成績評価の方法と基準	レポート (約60点)、筆記試験 (40点)、他							
テキスト・教材等	プリント (授業前に配付)							
回数	授 業 内 容				担当講師			
第1回	演習講義①				岩永書朋 専任講師			
第2回	演習講義②				〃			
第3回	演習	1) ヒト末梢神経の伝導速度測定 ①運動神経の伝導速度測定 ②強さ-時間曲線、クロナキシー 2) 心電図 ①標準肢誘導、単極肢誘導、胸部誘導 ②波形の計測 (心拍数、平均電気軸) 3) 血圧測定 ①水銀式・アネロイド式血圧計による血圧測定法 ②安静時と運動後の血圧 4) 呼吸機能測定 ①肺気量分画 (1回換気量、肺活量、予備吸気量など) の測定 ②努力性呼気曲線 (1秒率、最大呼気中間流量など) ③フローボリューム曲線 5) 総括			〃			
第4回	演習				〃			
第5回	演習				〃			
第6回	演習				〃			
第7回	演習				〃			
第8回	演習				〃			
第9回	演習				〃			
第10回	演習				〃			
第11回	演習				〃			
第12回	演習				〃			
第13回	演習				〃			
第14回	演習				〃			
第15回	試 験							

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学
代表講師	池田 裕 輔 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	4	学期・回数	前・後期：30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、身体運動の基礎知識を踏まえ、人体の観察、計測、分布する際の生体力学の基礎知識や運動時の生体の働きについて指導する。				
授業概要	人間を観察、計測、分析する際に必要な生体力学の基礎と生体の構造と生体内・外における運動時の機能について講義および演習を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の概要について説明することができる。 2. 人間を観察・計測・分析する際に必要な生体力学の基礎を説明することができる。 3. 生体の構造と生体内・外における運動時の機能について説明することができる。 4. 伝導路について、中枢神経系の概要とともに説明することができる。 				
成績評価の方法と基準	学習ポートフォリオ (40%)、筆記試験 (60%)				
テキスト・教材等	『基礎運動学』、『PT・OT 国家試験共通問題 できるもん・でたもん [基礎医学]』 『絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム』				
回数	授 業 内 容				
第1回	生体力学の基礎 身体運動と力学、時間と空間、運動の観測、運動学的分析				
第2回	生体力学の基礎 運動学的分析、円運動、筋力と重力、モーメント				
第3回	運動法則、質量と力の単位、重心の運動、剛体の回転運動				
第4回	仕事とエネルギー、身体とてこ				
第5回	細胞				
第6回	細胞膜の興奮、神経線維の興奮伝導、神経線維の種類				
第7回	組織、上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織				
第8回	骨の構造と機能				
第9回	関節の構造と機能				
第10回	腱および靭帯の構造と機能 骨格筋の構造 骨格筋の血管				
第11回	骨格筋の微細構造と筋収縮機序				
第12回	筋線維の種類 神経筋接合部と神経筋伝達 運動単位				
第13回	筋収縮の基礎的性質 筋収縮の様態 筋の働き				
第14回	中枢神経系と末梢神経系				
第15回	試 験				
第16回	上肢帯と上肢の運動				
第17回	下肢帯と下肢の運動				
第18回	体幹の運動				
第19回	運動の中中枢神経機構 反射運動				
第20回	姿勢反射と立ち直り反射				
第21回	姿勢と重心				
第22回	姿勢の異常				
第23回	歩行と歩行周期				
第24回	歩行の運動学的分析				
第25回	血液と循環について				
第26回	運動と呼吸について				
第27回	腎臓と酸塩基平衡				
第28回	栄養とエネルギー代謝について				
第29回	運動学習について				
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	人間発達学
代表講師	小 材 美沙紀 (臨床心理士)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授業概要	誕生から死まで、人間がどのような発達過程をたどるのか学習する。 生物心理社会的視点から人間の発達過程をながめ、それぞれの発達段階で生じやすい課題と支援について考える。				
到達目標	発達の知識を臨床や支援の場で活用することを念頭に、「正常な」発達とは何か、そこからの逸脱によって生じる課題、発達上の課題への支援について理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (50%)、レポート (25%)、授業参加態度 (25%) から総合的に評価する。				
テキスト・教材等	『リハビリテーションのための人間発達学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	イントロダクション、人間発達学がどのような学問か理解する。				
第2回	胎児期の身体発達と感覚器官の働きを知る。正常な発達を阻害する要因について学ぶ。				
第3回	新生児期の身体発達を学ぶ。養育者に生じる生活上の変化とそれへの適応の重要性を理解する。				
第4回	乳児期の身体発達、運動の発達について学ぶ。発達を支える遊びの特徴や養育者の関わりについて理解する。				
第5回	幼児期の身体発達、運動発達、社会性の発達を学習する。				
第6回	幼児期の遊びの特徴と遊びの発達における意義について学習する。 養育者のしつけが、幼児期の発達にどのように影響するか考え、理解する。				
第7回	児童期の身体発達、運動発達、社会性の発達について学習する。				
第8回	学校生活が児童期の発達に与える影響、またその発達の意義を理解する。 神経発達障害の概要を学び、それによる生活上の困り感について具体的に考える。				
第9回	青年期前期の身体発達の特徴を理解し、対人関係の捉え方の変化や情緒の変化について学習する。 青年期前期の発達の特徴をふまえた関わり方について考える。				
第10回	青年期の発達課題であるアイデンティティの確立と、そこから生じる課題について学習する。				
第11回	成人期前期の発達について学習する。家族の形成や、職業生活への適応について学び、その過程で生じる課題と望ましい支援のあり方について考える。				
第12回	成人期後期の家庭生活、職業生活における社会性について学習する。 成人期後期に生じる発達上の課題と支援について考える。				
第13回	老年期の身体発達、感覚器官、運動機能、認知機能の変化について学習する。				
第14回	老年期の生きがいの重要性、発達の意義について学習する。老年期の特徴をふまえた関わり方について考える。誕生から死までの発達課題を整理し、これまで学習したことをふり返し、まとめる。				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	神経内科学 I
代 表 講 師	川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、中枢神経疾患の作業療法を踏まえ、神経内科疾患で起きる神経症候について指導する。				
授 業 概 要	中枢神経疾患の患者に現れる各種神経症候について事例を活用し、グループ学習を通して講義及び演習を行う。				
到 達 目 標	各疾病における神経解剖学と神経症候（意識障害、記憶障害、知能障害、高次脳機能障害、運動障害、歩行障害、失調・不随意運動、筋萎縮、感覚障害、言語障害・嚥下障害、自律神経障害）を専門職と家族及びご家族に説明する文章を作成することができる。				
成績評価の方法と基準	学習成果物提出 (10%)、小テスト (40%)、応用演習問題 (40%)、最終応用演習問題 (10%)				
テキスト・教材等	『病気がみえる (vol.7) 脳・神経』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	神経内科概論				
第2回	意識障害				
第3回	記憶および知能の障害				
第4回	高次脳機能障害 (1) 失語症				
第5回	高次脳機能障害 (2) 失行症・失認症				
第6回	運動障害				
第7回	歩行の障害				
第8回	失調・不随意運動				
第9回	筋萎縮				
第10回	感覚障害				
第11回	言語障害・嚥下障害				
第12回	視覚障害				
第13回	自律神経障害				
第14回	画像診断				
第15回	最終応用演習問題				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学 I
代表講師	宮 内 大 介 (所属：くまもと悠心病院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回(30時間)
授 業 概 要	教科書、プリントを用いて講義を行い、問題演習にて講義のふりかえりを行う。 症状等については動画視聴や実際の症例の紹介なども行う予定。				
到 達 目 標	精神科疾患の特徴、治療、リハビリテーションへの理解				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》精神医学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	精神障害の分類				
第2回	精神機能の障害・症状				
第3回	診断と評価				
第4回	脳器質性精神障害、認知症				
第5回	症状性精神障害				
第6回	精神作用物質による障害				
第7回	てんかん				
第8回	統合失調症				
第9回	気分障害				
第10回	神経症、ストレス関連疾患				
第11回	発達障害				
第12回	精神科治療・リハビリテーション				
第13回	まとめ①				
第14回	まとめ②				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床心理学
代表講師	古 関 奈穂美 (臨床心理士)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授業概要	本講義では、まず臨床心理学の歴史を概観し、臨床心理学の発展に大きな貢献を果たしてきた主な理論について紹介する。さらに、近年ますます増加しているところの問題へのアプローチとしての「心理療法」および「心理アセスメント」について学習し、他者理解・援助の前提となる「自己理解」を深めるための話題や事例を取り上げる。				
到達目標	臨床心理学の発展の歴史について概観する 臨床心理学の主要理論および心理療法について理解する 数種類の心理検査を体験し、結果について考察する				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、平常点 (課題の提出および内容的確さ、参加態度) (30%)				
テキスト・教材等	『リハベーシック 心理学・臨床心理学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	臨床心理学とは：臨床心理学の定義・歴史・実践領域				
第2回	心の問題：現代社会における心の問題の特徴				
第3回	臨床心理学の主要理論：精神分析理論 ① 心の構造・防衛機制				
第4回	" ② 精神分析的な心理療法				
第5回	" ③ 分析的心理学 (ユング)				
第6回	" 行動主義心理学 ① 行動主義の考え方・行動療法				
第7回	" ② 認知行動療法				
第8回	" 人間性心理学 欲求階層説 (マズロー)・来談者中心療法 (ロジャーズ)				
第9回	その他の理論・心理療法：ゲシュタルト心理学、家族療法、森田療法 他				
第10回	"				
第11回	心理アセスメント：アセスメントの目的と方法・心理検査の種類				
第12回	" : 心理検査による自己理解 質問紙法と投影法 (実習)				
第13回	" : " "				
第14回	" : " 結果のまとめと考察				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	リハビリテーション医学概論
代表講師	坂 崎 浩 一 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	リハビリテーションの概要について理解を深めると共に、リハビリテーション医学にかかわる理学療法士として必要な基礎知識、評価の考え方、代表的疾患・外傷の理解とそれぞれのリハビリテーションのあり方について学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医学の理念と障害について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学に関する基礎学について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学における評価と対象となる疾患の概要について、理解し説明することができる。 				
成績評価の方法と基準	中間試験 (40%)、定期試験 (50%)、ノート提出状況 (10%)				
テキスト・教材等	『標準リハビリテーション医学』、配布資料、事前学習課題				
回数	授 業 内 容				
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念について理解する。 ・医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション及び地域リハビリテーションについて理解する。 				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のとらえ方 国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF) について理解する。 障害の受容 (プロセス) について理解する。 				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける基礎学 (運動生理学領域) 筋の Type、筋収縮とエネルギー源について理解する。 				
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験① ・リハビリテーションにおける基礎学 (運動学領域) 筋収縮の様式 (等尺性収縮・等張性収縮)、四肢の運動、姿勢について理解し表現できるようになる。 				
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける障害学 (運動器障害) 筋、骨、関節の損傷、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて理解する。 				
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける障害学 (神経系障害) 末梢神経系の損傷、中枢神経系の損傷の概要について理解する。 				
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける障害学 (廃用症候群) 廃用症候群の基礎 (症状等) について理解する。 				
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験② ・評価における基本事項の理解 関節可動域測定 (ゴニオメーターの使い方・基本軸、移動軸) について理解する。 				
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・評価における基本事項の理解 筋力評価 (6段階評価の捉え方) について理解する。 				
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・評価における基本事項の理解 バランス検査、ADL 評価の概要を理解する。 				
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・評価における基本事項の理解 認知症、意識障害 (JCS) の評価の概要について理解する。 				
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験③ ・代表的疾患に関する概要の理解 脳血管障害の病態像について理解する。 脳血管障害の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。 				
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的疾患に関する概要の理解 脳血管障害の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。 				
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的疾患に関する概要の理解 脊髄損傷の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。 				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	医学倫理・職業倫理学
代表講師	山 野 克 明 (所属：熊本保健科学大学)				
授業方法	講義及び演習	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	医学倫理および職業倫理の基礎について、作業療法士に関する事例を通して講義と演習を進めていきます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士を取り巻く医療倫理の問題ならびに臨床倫理の問題について知る。 2. 倫理的問題を解決するための原理を理解する。 3. 専門職とは何かについて説明できる。 4. 作業療法士の職業規範（倫理綱領および職業倫理指針を含む）について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	定期試験 (100%)				
テキスト・教材等	香川知晶：『命は誰のものか 増補改訂版』ディスカヴァートウエンティワン, 2021. 山野克明編著：『職業倫理を考える』理工図書, 2023. (その他、必要に応じ授業資料等を配布する)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	医学倫理・職業倫理学とは何か？				
第2回	患者の自己決定権を考える				
第3回	専門職一対象者の人間関係を考える				
第4回	医療福祉職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える（1）				
第5回	医療福祉職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える（2）				
第6回	医療福祉職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える（3）				
第7回	医療資源の配分・トリアージの倫理				
第8回	障がいと生命の倫理				
第9回	生殖技術・遺伝性疾患における倫理				
第10回	終末期医療（安楽死・尊厳死）				
第11回	アドバンス・ケア・プランニングについて				
第12回	脳死・臓器移植と倫理				
第13回	医療技術の進歩と倫理				
第14回	専門職としてどのように振る舞えばよいか考える（専門職の倫理教育）				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	保健医療福祉とリハビ リテーションの理念	科目名	公衆衛生学
代表講師	北 野 隆 雄 (元 熊本大学大学院生命科学研究部)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
授業概要	公衆衛生学の講義を通じて予防医学の概念を理解し、その実践方法の基本的な考え方を理解する。併せてわが国の公衆衛生行政のあり方についても理解を深める。				
到達目標	健康の概念について理解し説明できる。 予防医学の考え方を理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『シンプル衛生 公衆衛生学 2024』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	公衆衛生学概論：公衆衛生学とは				
第2回	保健統計：健康指標と人口統計				
第3回	疫学：疫学総論				
第4回	主な疾病と予防：疾病予防と健康管理				
第5回	環境保健：環境因子と疾病				
第6回	健康生活の実践（Ⅰ）：日常生活と健康				
第7回	健康生活の実践（Ⅱ）：社会生活と健康				
第8回	国際保健：国際保健の課題と目標				
第9回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	作業療法概論
代 表 講 師	高 木 勝 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員等が、作業療法の概論と作業療法士に関する業務や倫理について講義する。				
授 業 概 要	本邦における作業療法について、歴史、法律、制度、診療報酬、職能団体等の様々な視点から講義する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士に求められる基本的な資質と適性について理解することができる。 ・作業療法実践の枠組みを理解し、作業療法士の業務と役割、およびチーム医療の必要性について説明できる。 ・生活機能と障害について理解を深め説明できる。 ・作業療法士としての倫理やマナーについて説明できる。 ・作業療法を取り巻く現状 (診療報酬, 介護報酬含む) と課題について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (90%)、レポート (10%)				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第1巻 作業療法概論』、『標準作業療法学 専門分野』作業療法評価学』、『図解 作業療法技術ガイド第4版』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	作業療法士に求められる資質と適性 専門職になるために学習する知識と技術体系 チームアプローチ				
第2回	作業療法士の活動の場 作業療法の実践の紹介 作業の捉え方と評価・支援技術				
第3回	作業療法の定義 作業の定義 作業の治療的意味 作業の分類, 生活と作業 作業療法ガイドライン				
第4回	リハビリテーション医療の歴史 日本の作業療法の歴史 世界の作業療法の歴史、作業療法の現状と課題				
第5回	生活機能と障害 (ICF) の理解				
第6回	作業療法の原理 作業療法の理論				
第7回	領域別・病期別・圏域別作業療法の実際				
第8回	作業療法の流れ 作業療法の開始 作業療法の評価計画立案と評価実施 作業療法計画の立案と実施 終了と成果 フォローアップ				
第9回	作業療法ガイドライン、評価、課題抽出、計画立案、実施、再評価				
第10回	職業人として一般常識とマナー 倫理綱領 倫理指針				
第11回	理学療法士および作業療法士法 医療保険 (診療報酬) 介護保険 (介護報酬) 自立支援制度 部門の開設				
第12回	作業療法士の組織 日本作業療法士協会の歩み・発展と活動、重要課題など				
第13回	チーム医療啓発講義 (PT / CE / PO / EMTの内, 2学科による講義)				
第14回	チーム医療啓発講義 (PT / CE / PO / EMTの内, 2学科による講義)				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	臨床見学演習
代 表 講 師	川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な能力を身に付けるため、病院・施設等の臨床現場において、実習指導者の指導の下、見学を通して作業療法についての理解を深め、今後の学習や自己の課題について把握できるよう指導する。				
授 業 概 要	身体障害領域を中心に作業療法場面の見学を通して、身体障害領域における作業療法の対象疾患や治療・指導・援助の内容について理解を深める。また、社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図り、作業療法士になる自己の課題、今後取り組むべき事項を1年次に把握し、学習に対する動機づけを高める。				
到 達 目 標	到達目標は以下の通りである。 1. 見学施設の役割と機能について説明できる。 2. 作業療法士の治療・指導・援助について説明できる。 3. 専門職としての作業療法士の適性とはどのようなものかを見学を通して説明できる。				
成績評価の方法と基準	レポート (100%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	<p>〈期 間〉 2024年8月中旬5日間 (8/19～8/23を予定)</p> <p>〈内 容〉 学内講義・演習と臨床講義・見学を組み合わせることで実施することにより、作業療法士になる自己の課題、今後取り組むべき事項を1年次に把握し、学習に対する動機づけを高める。 施設見学は3日間実施する。 最終日には、学内で反省会、臨床見学実施報告会、課題の提出を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目 学内講義・オリエンテーション： 作業療法の臨床、実習生としての心構え、守秘義務、見学時の視点等について ・2日目～4日目 臨床講義： 施設における作業療法の役割、位置づけ 施設の作業療法の概要と特徴 学生時代に学んでおくべきこと 見学時の注意事項 等 ・5日目 学内講義： まとめと反省 (臨床見学実施報告会、課題提出) 				
第2回					
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	基礎作業療法学演習 I
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回 (60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員等が、対象者の生活機能に影響を及ぼしている疾患や障害の理解に必要な、解剖学・生理学の基礎医学と作業療法の関連について講義する。				
授 業 概 要	作業療法と関連のある疾患や障害の理解に必要な解剖学・生理学を国家試験問題を中心にグループ学習を行い、講義・演習を行う。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法と関連のある疾患や障害の理解に必要な解剖学・生理学を理解することができる。 ・国家試験に必要な知識を理解することができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、小テスト (30%)				
テキスト・教材等	『PT・OT 国家試験共通問題 できるもん・でたもん [基礎医学]』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 J 細胞の構造 解剖学 J 発生 人の身体の構造を考えよう				川口航平
第2回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 B 骨の構造と分類 人体にはどんな骨が存在するのか				〃
第3回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 B 骨形成と骨吸収 骨はどうやってできるのか				〃
第4回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 B 関節の形状、骨・靭帯・関節 人体の各部関節の形を知ろう				〃
第5回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 E 心臓 生理学 I 心筋の特性 心臓の構造と働きを知ろう				〃
第6回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 I 心臓拍動の自動性と心拍出量 心臓の刺激伝導系 心臓の動きと心電図を知ろう				〃
第7回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 I 循環の調整 実際に血圧測定をやってみよう				〃
第8回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 E 動脈系 静脈系 胎児期の循環系 人体の血液の流れを知ろう				〃
第9回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 E 脳の動脈 リンパ系 脳には血液がたくさん必要				〃
第10回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 J 血液の成分 血液細胞の生成と分化 働く細胞！血液はどんな役割をしているの？				〃
第11回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 J 血液凝固と線溶現象 止血はどんなしくみなのか知ろう				〃
第12回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 F 呼吸器 息を吸って吐く。呼吸器の名称を覚えよう				〃
第13回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 F 気管・気管支 横隔膜・胸膜 呼吸のしくみを知ろう				〃
第14回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 H 呼吸運動 酸塩基平衡 呼吸の調節 息苦しくなった！身体の中はどうなっている？				〃
第15回	試 験				
第16回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 C 骨格筋の構造 生理学 B 筋線維の種類 筋肉ってどのようにできているの？				田河和代
第17回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 B 筋紡錘 筋収縮 筋肉の中をのぞいてみよう				〃
第18回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 D 中枢神経系一脊髄・脳 大脳の中をのぞいてみよう				〃
第19回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 D 脳神経 末梢神経 大脳や手足の神経について考えよう				〃
第20回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 D 腕神経叢 腰神経叢・仙骨神経叢 解剖学 C 筋の神経支配				〃

回数	授業内容	担当講師
第21回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 C 神経線維の構造 興奮と伝達 シナプス伝達 神経って何だろう	田河和代
第22回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 C 神経筋接合部の興奮伝達 反射 膝蓋腱反射はどうして起こる？	〃
第23回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 D 伝導路 内臓感覚 生理学 G 自律神経系 痛い・熱いってどうやって感じる？	〃
第24回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 D 視覚 聴覚・平衡感覚 嗅覚・味覚 見て聴いて臭って味わう。どんなしくみ？	〃
第25回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 F 口腔・舌・咽頭・食道 胃 ご飯を食べるとどうなる？	矢形あゆみ
第26回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 F 小腸・大腸 肝臓・膵臓・胆嚢 内臓をのぞいてみよう	〃
第27回	作業療法と解剖学・生理学 解剖学 F 腎臓 前立腺・膀胱・生殖器 排泄に必要な臓器を知ろう	〃
第28回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 K 嚥下運動と嚥下反射中枢 胃内消化 腸内消化吸収 食べ物はどうやって消化される？	〃
第29回	作業療法と解剖学・生理学 生理学 K 尿の性状 腎臓 排尿 排便 排尿・排便のしくみを知ろう	〃
第30回	試験	

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学 I
代表講師	池田 裕 輔 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。				
授業概要	学生自らが作業療法評価スキルを身に付けるために、グループを単位として主体的学習を行う方法である skill lab (スキルラボ)・PSI (個別化教授システム) 学習方法を用い、資格教材を中心に自己学習を進める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法評価における検査測定の意味を述べることができる。 形態測定に必要な知識、技術を習得する。 関節可動域測定の方法を理解し、技術を習得する。 				
成績評価の方法と基準	事前小テスト (20%)、事後小テスト (20%)、レポート (患者家族への説明) (20%)、実技習熟度確認テスト (40%)				
テキスト・教材等	『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、『臨床ROM 第2版—測定からエクササイズまで【Web 動画付き】』、『PT・OT のための測定評価 DVD Series』2 形態測定・感覚検査・反射検査』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	評価とは、検査測定の意味および目的、実技習得における skill lab (スキルラボ)・PSI (個別化教授システム) についての概要説明。				淵野浩二 池田裕輔
第2回	形態測定 (上肢)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第3回	形態測定 (下肢)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第4回	形態測定 (周径)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第5回	形態測定 (総合的学習)				〃
第6回	関節可動域測定 (肩関節)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第7回	関節可動域測定 (肘関節)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第8回	関節可動域測定 (手関節・手指)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第9回	関節可動域測定：(上肢の総合的学習)				〃
第10回	関節可動域測定 (股関節)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第11回	関節可動域測定 (膝関節)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第12回	関節可動域測定 (足関節)：事前小テスト・レポート (患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第13回	関節可動域測定：(下肢の総合的学習)				〃
第14回	関節可動域測定 (頸部・体幹・その他の検査法)：事前小テスト・レポート(患者家族への説明)・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第15回	関節可動域測定：(頸部・体幹・その他の検査法)				〃

学 科	作業療法学科 1年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	ファシリテーション演習 I
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として実務経験のある教員が、作業療法に必要な自己の治療的利用や他者との相互作用について講義・演習を行う。				
授 業 概 要	作業療法は、「ひと」を対象としている。他者に関わる職業では、自分がどんな自我で色づけされているのか知る必要があるため、ポートフォリオ作成や発表、構成的な集中的グループ体験学習を通して、自分自身を振り返り、見つめる。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 治療道具としての自己を利用するために、自己を見つめ、再発見することができる。 治療として集団を利用するために、集団の中で自己表現を体験し、他者と出会い、相互関係について考えることができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (50%)、提出物 (ポートフォリオ 40%・レポート 10%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション * 自己を見つめるとは何か・ポートフォリオとは何か				
第2回	自己を見つめることについて考える				
第3回	ポートフォリオの構成を考え、作成する * ポートフォリオの作成にあたって材料を準備すること				
第4回	ポートフォリオの構成を考え、作成する * ポートフォリオの作成にあたって材料を準備すること				
第5回	ポートフォリオをグループで発表し、自己を表現する				
第6回	集中的グループ体験学習準備 (各種、心理検査の実施) * 実施要項に基づき、学習の目的の理解と必要準備物を揃えること				
第7回	集中的グループ体験学習 * 心を開く・他者を認める。リラクゼーション・アサーション				
第8回	集中的グループ体験学習 * コミュニケーション				
第9回	集中的グループ体験学習 * コミュニケーション				
第10回	集中的グループ体験学習 * 意見の違いを乗り越えてグループで課題解決				
第11回	集中的グループ体験学習 * 身体を動かす				
第12回	集中的グループ体験学習 * グループで表現する				
第13回	集中的グループ体験学習 * グループで表現する				
第14回	集中的グループ体験学習 * 好感の伝達・好感感情のフィードバック				
第15回	試 験				